

## [短 報]

## 父親の育児参加を促す NICU スタッフの取り組みの実態

川合 美奈 三国 久美 木浪 智佳子 畑江 郁子

北海道医療大学看護福祉学部看護学科

## キーワード

NICU, 父親, 育児参加, 看護

## I. 緒言

新生児特定集中治療室 (Neonatal Intensive Care Unit, 以下 NICU) に入院する児は増加し, 在院日数も長期化している<sup>(1)</sup>. 児の入院が長期化すると, 父親は次第に仕事を中心とした生活へと戻っていく. その背景として日本では, 夫に育児への関与を期待しつつも, 仕事優先を希望する妻が多い<sup>(2)</sup>. 平成23年の平日における仕事時間を仕事時間階級別に平成18年と比較すると, 男性は11時間以上で0.6ポイント上昇している<sup>(3)</sup>. 仕事に多くの時間を費やし, それ以外の時間を持つ余裕が少ない父親にとって, 面会時間に合わせて来院する事は難しく, 子どもとの接触により父親としての実感を得る機会は限られる. また, 近年では核家族が増加しており, 家族形態の変容により, 身近に相談できる相手を持ちにくい母親にとって, 父親の情緒的サポートが重要である. しかし, 面会に来ることが少ない父親が育児行為を体験する機会は限られており, 母親の行う育児への理解に結び付きにくい. 宮武<sup>(4)</sup>によると, 夫の情緒的サポートは, 母親の育児満足度を高め, 間接的に育児不安を減ずる方向に影響していた. さらに, 育児ストレスに関する桑名ら<sup>(5)</sup>の研究によると, 親機能に関する育児ストレスは夫婦間での関連が強いため, 親への支援を行う場合は一方の親を対象とした支援ではなく, 両親を対象とした支援を行う必要があることが示唆されている.

これらのことから, 父親が父親としての実感を得て, 母親の育児に共感し, 情緒的サポートを提供するためには, NICU に勤務する看護職 (以下 NICU スタッフ) が意識して, 父親に働き掛けを行うことが重要であると考えられる. しかし, その実態は明らかではない. そこで, NICU スタッフによる父親に育児参加を促す取り組みの実態を明らかにすることを本研究の目

的とした.

## II. 方法

## 1. 研究協力者

北海道内の NICU 病床を有する22病院に勤務する NICU スタッフ433名を対象に調査を実施し, 協力が得られた230名を研究協力者とした.

## 2. 調査方法

郵送法による無記名の自記式質問紙調査を実施した. 調査期間は2012年6月から7月である.

## 3. 調査項目

## 1) NICU スタッフの属性

性別, 年齢, 看護師の勤務経験年数, NICU の勤務経験年数, 職位, 職種, 育児経験の有無について尋ねた. また, 父親の育児指導の必要性の認識と実施, 父親への育児指導内容の希望の確認について尋ねた. なお, 本調査での「育児指導」とは, 父親にも実施が可能な, 抱っこ・タッチング, おむつ交換, 哺乳びん授乳, 沐浴とした.

## 2) NICU の状況

両親への面会時間の制限の有無, 仕事をもつ両親への面会時間の配慮の有無, 母親および父親へのカンガルーケアの有無, 育児指導プログラムの有無, 育児指導プログラムの対象者について尋ねた.

## 3) NICU スタッフによる父親の育児参加を促す取り組み

“父親の育児参加を促す取り組みをしていますか”と尋ね, 「はい」「いいえ」の二択で回答を得た. さらに, 「はい」と回答した場合にその具体的な内容を自由記述形式で尋ねた. なお, 本研究に用いた調査項目は質問紙調査の一部である.

## 4. 分析方法

調査協力者230名 (回収率53.1%) のうち, “父親の育児参加を促す取り組みをしていますか” という設問に, 「はい」と回答した群と「いいえ」と回答した群で NICU スタッフの属性および NICU の状況に違い

## &lt;連絡先&gt;

川合 美奈

〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757

北海道医療大学看護福祉学部看護学科

母子看護学講座

TEL: 0133-23-1464

がみられるか、統計的解析により検討した。P<0.05を有意差ありとした。次に、“父親の育児参加を促す取り組みをしていますか”という設問に「はい」と回答した69名の具体的な取り組みの内容の記述を分析した。NICUスタッフの取り組みを示す記述部分を、意味が類似する内容ごとに集約し、分類を行った。集約した内容を、“取り組みの時機”“取り組みの内容”“NICUスタッフの働きかけの方法”の3つの側面から内容分析の手法を用いて分類し、集計した。データの分析は共同研究者間で確認しながら進め、妥当性を確保するように努めた。

### 5. 倫理的配慮

研究の実施にあたり、北海道医療大学大学院看護福

祉学研究科倫理委員会の承認を得た。また、調査対象者には研究主旨の説明、個人情報保護、途中撤回の自由等について、書面により説明を行い、質問紙の返送をもって同意したとみなすことを説明した。

### III. 結果

#### 1. NICUスタッフの属性と父親の育児参加を促す取り組み (表1)

“父親の育児参加を促す取り組みをしていますか”という設問に「はい」と回答し、具体的な内容を記述したNICUスタッフ69名の属性は、女性が100%、年齢は30歳代が35.3%、看護師の経験年数は10年以上が50.0%、NICUの勤務経験年数は3年未満が31.3%であった。職位はスタッフが89.7%、職種は看護師が

表1 NICUスタッフの属性と父親の育児参加を促す取り組み

項目	“父親の育児参加を促す取り組みをしていますか”		P 値
	はい (N = 69)	いいえ (N = 161)	
性別			
男性	0 (0.0)	1 (0.6)	1.000
女性	68 (100.0)	160 (99.4)	
年齢			
20歳代	22 (32.4)	62 (38.5)	0.646
30歳代	24 (35.3)	53 (32.9)	
40歳代	20 (29.4)	38 (23.6)	
50歳代以上	2 (2.9)	8 (5.0)	
看護師の勤務経験年数			
3年未満	12 (17.6)	20 (12.6)	0.807
5年未満	6 (8.8)	23 (14.5)	
10年未満	16 (23.5)	32 (20.1)	
10年以上	34 (50.0)	84 (52.8)	
NICUの勤務経験年数			
3年未満	21 (31.3)	62 (39.0)	0.733
5年未満	16 (23.9)	34 (21.4)	
10年未満	20 (29.9)	40 (25.2)	
10年以上	10 (14.9)	23 (14.5)	
職位			
管理職	7 (10.3)	11 (7.0)	0.426
スタッフ	61 (89.7)	147 (93.0)	
職種			
看護職	53 (77.9)	125 (79.1)	0.860
助産師	15 (22.1)	33 (20.9)	
育児経験			
あり	14 (20.6)	58 (36.3)	0.020
なし	54 (79.4)	102 (63.8)	
父親の育児指導の必要性			
とても必要	49 (71.0)	86 (53.4)	0.041
まあ必要	20 (29.0)	74 (46.0)	
必要ない	0 (0.0)	1 (0.6)	
父親の育児指導の実施			
いつも行う	30 (43.5)	24 (14.9)	0.001
必要な時に行う	39 (56.5)	133 (82.6)	
行わない	0 (0.0)	4 (2.5)	
母親に父親への育児指導内容の希望を確認する			
確認する	22 (31.9)	25 (15.5)	0.009
場合によっては確認する	38 (55.1)	120 (74.5)	
確認しない	9 (13.0)	16 (9.9)	
父親に育児指導内容の希望を確認する			
確認する	15 (21.7)	13 (8.1)	0.005
場合によっては確認する	47 (68.1)	115 (71.4)	
確認しない	7 (10.1)	33 (20.5)	

注) 性別、職位、職種、育児経験については Fisher の直接法、それ以外は  $\chi^2$  検定を実施した

77.9%であった。育児経験の「ある」スタッフが20.6%で、父親の育児指導の必要性は「とても必要」との認識が71.0%であった。そして、父親への育児指導の実施を「いつも行う」と回答したスタッフが43.5%であった。また、父親への育児指導内容の希望について、母親に「確認する」と回答したスタッフは31.9%、父親に「確認する」と回答したスタッフは21.7%であった。

“父親の育児参加を促す取り組みをしていますか”という設問に「はい」と回答したNICUスタッフ69名と、「いいえ」と回答した161名を比較した。育児経験が「ない」、父親の育児指導の必要性を「とても必要」と認識している、父親の育児指導の実施を「いつも行う」、母親および父親自身に父親の育児指導内容の希望を「確認する」と回答したNICUスタッフの割合は、“父親の育児参加を促す取り組みをしていますか”の問いに「はい」と答えた群が有意に多かった。

**2. NICUの状況と父親の育児参加を促す取り組み (表2)**

“父親の育児参加を促す取り組みをしていますか”という設問に「はい」と回答し、具体的な内容を記述したNICUスタッフ69名の所属するNICUの状況としては、面会時間の制限が「ある」NICUは87.0%、仕事をもつ両親への面会時間の配慮が「ある」NICUは85.1%であった。また、母親へのカンガルーケアが「ある」NICUは95.7%、父親へのカンガルーケアが「ある」NICUは95.7%であった。育児指導プログラムが「ある」NICUは52.2%、その育児指導プログラ

ムの対象を「両親」としているNICUは61.1%であった。

“父親の育児参加を促す取り組みをしていますか”という設問に「はい」と回答したNICUスタッフ69名と、「いいえ」と回答した161名を比較した。NICUに面会時間の配慮が「ある」、父親へのカンガルーケアが「ある」と回答したNICUスタッフの割合は、“父親の育児参加を促す取り組みをしていますか”の問いに「はい」と答えた群が有意に多かった。

**3. 父親の育児参加を促すNICUスタッフの取り組みの実態 (表3)**

“父親の育児参加を促す取り組みをしていますか”の設問に「はい」と回答し、具体的な内容を記述したNICUスタッフ69名の取り組みとして記載された内容は、“取り組みの時機”が6項目、“取り組みの内容”が13項目、“NICUスタッフの働きかけの方法”が4項目に分類された。以下に分類の内容を説明する。なお、「」は自由記述部の記載内容、【 】は分類を示す。

1) “取り組みの時機”

NICUスタッフが、父親に育児参加を促す取り組みを行う時機として最も多かったのが、「面会があれば」、「面会に来た時」等【父親が面会に来た時】であった。次いで、「希望時」、「希望があれば」等【父親の希望に合わせて】や、「両親がそろそろ日」、「両親で面会に来た時に」等【両親が揃って面会に来た時】と続く。また、「兄の状態に合わせて」、「入院時から保育器にいるうちに」、「保育器に入っているうちに」、「コット

表2 NICUの状況と父親の育児参加を促す取り組み

項 目	“父親の育児参加を促す取り組みをしていますか”		P 値
	はい (N = 69)	いいえ (N = 161)	
両親への面会時間の制限			
ある	60 (87.0)	143 (89.9)	0.326
ない	9 (13.0)	16 (10.1)	
両親への面会時間の配慮			
ある	57 (85.1)	109 (68.6)	0.013
ない	10 (14.9)	50 (31.4)	
母親へのカンガルーケア			
ある	66 (95.7)	142 (88.8)	0.134
ない	3 (4.3)	18 (11.2)	
父親へのカンガルーケア			
ある	66 (95.7)	132 (83.0)	0.010
ない	3 (4.3)	27 (17.0)	
育児指導プログラム			
ある	36 (52.2)	89 (56.0)	0.664
ない	33 (47.8)	70 (44.0)	
育児指導プログラム対象者			
両親	22 (61.1)	42 (47.2)	0.172
母親	14 (38.9)	47 (52.8)	

注) Fisher の直接法を実施した

表3 父親の育児参加を促す NICU スタッフの取り組みの実態

	n
“取り組みの時機”	
【父親が面会に来た時】	22
【父親の希望に合わせて】	10
【両親が揃って面会に来た時】	9
【児の状態に合わせて】	6
【機会があれば】	6
【必要な場合】	1
“取り組みの内容”	
【沐浴】	34
【哺乳・授乳】	27
【おむつ交換】	25
【カンガルーケア】	15
【育児に関すること】	15
【抱っこ】	12
【母親と同じ内容】	9
【タッチング】	6
【面会】	6
【父親が出来ること】	4
【排気】	1
【日中泊】	1
【肛門刺激】	1
“NICU スタッフの働きかけの方法”	
【父親に実施する・してもらう】	51
【父親に促す】	13
【看護計画や評価対象に父親を含める】	5
【父親を手伝う】	4

移床後」等、父親が面会に来ていても、いつも行うのではなく、【児の状態に合わせて】行うと回答したNICUスタッフもいた。そして、「タイミングが合えば」、「出来る時は」等【機会があれば】行うといった回答や、父親に【必要な場合】に行うといった6項目の父親の育児参加を促す取り組みの時機に分けられた。

## 2) “取り組みの内容”

父親に育児参加を促すための取り組みの内容としてNICUスタッフは、【沐浴】、【哺乳・授乳】、【おむつ交換】等の育児手技として必要な技術の指導が多くあげられた。また、【カンガルーケア】、【抱っこ】や【タッチング】、【面会】等の、まずは児との接触を試みる行為を、NICUスタッフは父親に実施していた。そして、「母と同じように」、「母と同じプログラムで」等【母親と同じ内容】を父親に同じく実施したり、「育児技術」、「育児について」等【育児に関すること】、「出来ること」等【父親が出来ること】を実施していた。他に【排気】、【日中泊】、【肛門刺激】を実施しており、父親の育児参加を促すために実施した取り組みの内容は13項目に分けられた。

## 3) “NICU スタッフの働きかけの方法”

「してもらう」、「指導する」、「積極的に実施する」、「出来る限り経験してもらう」、「方法を伝える」等の【父親に実施する・してもらう】、「声掛けをする」、「促している」、「パパ優先にってもらう」等の【父親に促す】、「一緒に行う」、「獲得のためのサポートを行う」等の【父親を手伝う】という行動をしていた。さらに、「看護診断に介入が上がっている」、「看護計画の評価を一緒に行う」等【看護計画や評価対象に父親を含める】という行動をしていた。父親の育児参加を促すためのNICUスタッフの働きかけの方法は4項目に分けられた。

## IV. 考察

### 1. NICU スタッフの属性と父親の育児参加を促す取り組み

育児経験のないNICUスタッフや、父親の育児指導の必要性の認識が高いNICUスタッフ、父親に育児指導をいつも実施しているNICUスタッフが“父親の育児参加を促す取り組み”をより多く行っていた。育児経験のないNICUスタッフは、父親に育児に参加してもらいたいという思いをもっていることが

ら、このような結果になったのではないかと考える。育児経験のないNICUスタッフよりも、育児経験のあるNICUスタッフは、帰宅時間の遅い父親が育児を分担することの難しさも知っていることからこのような結果になったものと推測する。

父親に育児指導を行う必要性を強く認識し、育児指導の実施をいつも行うNICUスタッフは、父親の育児参加を促す取り組みをより行っていた。後にも述べるが、育児参加を促すことはすなわち育児手技を獲得することであるとの認識がNICUスタッフにあることから、このような結果になったものと考えられる。

また、父親への育児指導内容の希望を母親および父親自身に確認することが、父親の育児参加を促す取り組みに関連していた。NICUスタッフが母親に父親への育児指導内容を確認することは、助けを必要とする母親のニーズを満たすことになる。さらに、その内容を指導し、父親に実施してもらうことで、母親に満足感が得られる。母親からのポジティブなフィードバックを父親が受けることで、より一層父親が育児参加に前向きになることを狙った取り組みではないかと考える。そして、NICUスタッフが父親自身に、直接希望する育児指導内容を確認することによって、無力さや疎外感を抱いているために医療者に接触してこないこともある<sup>④</sup>父親が、自分にも出来ることがあると父親役割を認識するきっかけとなるのではないかと考える。このように、父親の主体性を保持しつつNICUスタッフが父親に関わることは、父親の育児参加に対する意欲を高めるために有効であると考えられる。

## 2. NICUの状況と父親の育児参加を促す取り組み

両親への面会の配慮があるNICUや、父親へのカンガルーケアを推進しているNICUに所属しているNICUスタッフは、父親の育児参加を促す取り組みをより行っていた。

面会時間の制限があるNICUは8割を超えていた。一方で、仕事をもつ両親への面会時間の配慮があるNICUも8割以上であった。小澤<sup>⑦</sup>により、NICUとGCUの光環境・明暗周期が退院後の早産児に与えるサーカディアンリズムの確立への影響が示唆されている。入院中から一定のリズムで環境を整えることは、児の成長や発達のために必要であるが、その範囲の中で出来る限り、父親と児との接触を可能にするために面会時間への配慮を行っているものと考えられる。

未熟児の出産にしばしばともなう父母の分離感や、不満足感を軽減させ、親子の愛着形成を促進させる意味合いで実施されるカンガルーケアを推進しているNICUに所属するNICUスタッフは、父親と子どもとの接触を積極的に行っており、父親の育児参加も同様に積極的に促しているものと考えられる。

## 3. 父親の育児参加を促すNICUスタッフの取り組みの実態

### 1) “取り組みの時機”

取り組みの時機として【父親が面会に来た時】、【父親の希望に合わせて】、【両親が揃って面会に来た時】があがっていた。これらから、NICUスタッフが父親に対して積極的に関わろうとする姿勢が窺えた。親となる男性は、家庭内役割の実施よりも仕事を優先に考えたり、仕事の制約があるなかでも自分が行える役割を探求するという、仕事と家庭内役割の役割調整を行っているという特徴がみられる<sup>⑧</sup>。自身の役割調整を行いながら面会にくる父親に、NICUスタッフが合わせて関わることで、父親とNICUスタッフの接触の機会を増加させ、父親のニーズを捉えることにも繋がるものと考えられる。

一方、【児の状態に合わせて】、【機会があれば】、【必要な場合】といった回答からは、やや慎重な関わりが窺えた。子どもに触れ、存在を体感することで父親としての実感が得られる<sup>⑨</sup>ことから、実際に育児行為を体験することは重要であるが、児の状況によってはネガティブな感情が強くなっていることも予測され、また無理強いをすることで父親が育児に対して消極的になってしまう可能性もあることから、NICUスタッフは慎重に関わっているものと推測された。

### 2) “取り組みの内容”

NICUスタッフが、父親に育児参加を促すための取り組みの内容として、【沐浴】、【哺乳・授乳】、【おむつ交換】等の育児手技として必要な技術の指導を行っていた。さらに、NICUスタッフは【カンガルーケア】、【抱っこ】や【タッチング】、【面会】等の、まずは児との接触を試みる行為を父親に実施していた。先行研究でも、父親としての実感のきっかけは、抱っこ、授乳、おむつ交換・タッチング等の子どもに触れ、存在を体感することで得られる<sup>⑩</sup>とされる。このことから、育児手技の獲得によって育児参加を促すことができるとの認識がNICUスタッフにあるのではないかと考えられる。

そして、NICUスタッフは【母親と同じ内容】を父親に同じく実施していた。育児指導プログラムの対象者を両親と6割が回答していることから、育児は両親が行うものとの認識し、実施しているのではないかと考える。また、【育児に関すること】や、【父親が出来ること】を父親に実施していた。他に【排気】、【日中泊】、【肛門刺激】も実施しており、その取り組みの内容は多様であるが、父親に児との接触を含めた体験をさせることを、育児参加を促す取り組みとして行っているものと推測された。

### 3) “NICUスタッフの働きかけの方法”

【父親に実施する・してもらう】、【父親に促す】、【父親を手伝う】、【看護計画や評価対象に父親を含め

る】という方法でNICUスタッフは父親に働きかけていた。

育児指導プログラムがあるNICUは52.2%と半数程度であり、そのうち指導対象を両親としているNICUは6割を超えていた。NICUスタッフは、父親に【実施する・してもらう】だけでなく、父親に育児行為を【促す】ようにしていた。育児行為を促す際は、父親にも不安・驚き・恐怖等の心理的変化が起きる<sup>(11)</sup>ことを考慮し、父親の感情を確認せずに、プログラム通りに進行するようなことは避けなければならない。このことから、NICUスタッフの慎重な関わりは、妥当であると考えられる。さらに、【父親を手伝う】ことで、父親の成功体験を助け、自信を付けてもらい、【看護計画や評価対象に父親を含める】等、NICU入院中から父親を育児者として巻き込むように取り組んでいることが窺えた。父親に疎外感を与えず、育児参加の機会を多く設けることで、子育てへの自信が生まれ、父親の育児への関心を継続させることに繋がるのではないかと考える。

育児に対する夫の役割認識が育児への協力面に左右する<sup>(12)</sup>。このため父親の早産児との初期の関わりでは、役割遂行という責任感の上に成り立っている場合があるということ NICUスタッフが理解し、「父親が役割を担おうとしていること」を認め、無事に遂行できるよう支援することが必要である<sup>(13)</sup>。また、男性の育児参加の割合が低い理由として、「育児の仕方がよく分からないから」という回答が31.4%だった<sup>(14)</sup>。このことから、本調査の結果で示されたようにNICUスタッフが父親に【沐浴】、【哺乳・授乳】、【おむつ交換】等の具体的な育児の仕方を教えることで、父親の育児参加の促進につながる事が考えられた。

より多くのNICUスタッフが父親への働きかけを継続して行うことが望まれる。

## V. 研究の限界

本研究は、質問紙調査の一部である自由記述内容の分析であり、記述内容の意図の読み取りには限界があった。今後はNICUスタッフを対象にした参加観察により、児や父親の状況に応じた育児参加を促す取り組みを詳細に捉える必要がある。

## VI. 謝辞

本研究にご協力いただきましたNICUスタッフの皆様へ感謝いたします。

本研究は、北海道医療大学大学院看護福祉学研究科修士論文の調査の一部を分析したものである。

## 文献

1) 東京都福祉局. 東京都NICU 退院支援モデル事業報告書. <http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/kyuukyuu/syusankiiryu/nicutainshien.html>. [2013. October 10]. 2012.

- 2) 森田美佐. 日本の父親の子育てと「稼ぎ手」役割. 高知大学教育学部研究報告. 2011; 71: 179-186.
- 3) 総務省統計局. 平成23年社会生活基本調査 生活時間に関する結果 概要. <http://www.stat.go.jp/data/shakai/2011/index.htm>. [2012. October 10]. 2011.
- 4) 宮武典子. NICUに入院していた児を育てている母親の夫のサポート・ピアサポートと育児不安および対処方略の関連. 日本看護研究学会誌. 2007; 30(2): 97-108.
- 5) 桑名佳代子・桑名行雄・細川徹. 1歳6歳児をもつ親のストレス(2)-両親間における育児ストレスの関連-. 東北大学大学院教育学研究科研究年報. 2008; 57(1): 339-358.
- 6) 新川治子. 切迫早産の初産婦の夫の妊娠や出産父親になることに対する気持ちの変化-入院から出産までの追跡-. 日本助産学会誌. 2006; 20(2): 64-73.
- 7) 小澤未緒. NICUとGCUの光環境が早産児に及ぼす影響に関する文献的考察. 日本新生児看護学会誌. 2007; 13(3): 6-17.
- 8) 森田亜希子・森恵美・石井邦子. 親となる男性が産後の父親役割行動を考える契機となった妻の妊娠期における体験. 母性衛生. 2010; 51(2): 425-432.
- 9) 三ツ木愛美・角山智美・深谷悠子・小林美幸・大野美津江. NICUにおける父性育成に向けた援助と対児感情の変化. 日農医誌. 2009; 58(2): 90-93.
- 10) 全掲載9
- 11) 小池伝一. NICU入院期間中の超低出生体重児の両親の家族形成過程. 日本新生児看護学会誌. 2009; 15(1): 20-27.
- 12) 渡邊タミ子・樋貝繁香. 育児に対する夫婦の役割分担観とその満足度に関する研究. Yamanashi Nursing Journal. 2004; 2(2): 37-44.
- 13) 関森みゆき. NICUにおいて早産児の父親が育む我が子との関係性. 日本新生児看護学会誌. 2006; 13(1): 2-7.
- 14) 中央調査社. 中央調査報「父親の育児参加に関する世論調査」. <http://www.crs.or.jp/backno/No659/6592.htm> [2013. December 27]. 2012.

受付: 2013年11月30日

受理: 2014年2月5日